

CASBEE京都-新築(2011年版)
総合高度先端医療病棟

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		評価点	重み係数				評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質											3.4	
Q1 室内環境								0.40				3.5
1 音環境							3.0	0.15	3.0	1.00		3.0
1.1 騒音							3.0	0.40	3.0	0.40		
1 室内騒音レベル							3.0	1.00	3.0	1.00		
1.2 遮音							3.0	0.40	3.0	0.40		
1 開口部遮音性能							3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能							3.0	0.60	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								-	3.0	0.20		
1.3 吸音							3.0	0.20	3.0	0.20		
2 温熱環境							3.3	0.35	3.0	1.00		3.3
2.1 室温制御							3.7	0.50	3.0	0.50		
1 室温							3.0	0.38	3.0	0.57		
3 外皮性能							3.0	0.25	3.0	0.43		
4 ゾーン別制御性							5.0	0.38		-		
2.2 湿度制御							3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式							3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境							3.0	0.25	3.5	1.00		3.0
3.1 昼光利用							3.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光率 ●自然 A(全国版準用)							3.0	0.60	3.0	0.60		
2 方位別開口								-		-		
3 昼光利用設備 ●自然 B(推奨内容)							3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策							3.0	0.30	3.0	0.30		
2 昼光制御 ●自然 B(推奨内容)							3.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度							3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御							3.0	0.25	5.0	0.25		
4 空気質環境							4.5	0.25	4.3	1.00		4.5
4.1 発生源対策							5.0	0.50	5.0	0.63		
1 化学汚染物質							5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気							3.5	0.30	3.3	0.38		
1 換気量							3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能 ●自然 A(全国版準用)							4.0	0.50	4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮							5.0	0.20		-		
4.3 運用管理							5.0	1.00	5.0	1.00		
1 CO ₂ の監視							5.0	1.00	5.0	1.00		
2 喫煙の制御								-		-		
Q2 サービス性能								0.30				3.6
1 機能性							3.3	0.40	4.6	1.00		3.5
1.1 機能性・使いやすさ							3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性								-	5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応								-		-		
3 バリアフリー計画 ●大切 D(独自基準)							3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性							3.0	0.30	4.0	0.40		
1 広さ感・景観 ●とも C(独自加点)								-	5.0	0.50		
2 リフレッシュスペース								-		-		
3 内装計画 ●とも D(独自基準)							3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理							4.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計							4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保							4.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性							4.1	0.31		-		4.1
2.1 耐震・免震							5.0	0.48		-		
1 耐震性							5.0	0.80		-		
2 免震・制振性能							5.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数							3.0	0.33		-		
1 躯体材料の耐用年数 ●大切 A(全国版準用)							3.0	0.23		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							3.0	0.23		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							3.0	0.09		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							3.0	0.08		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							3.0	0.15		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔							3.0	0.23		-		

2.4 信頼性				空調・換気系統の区分化、2重化の実施	4.2	0.19		-	
1	空調・換気設備			4.0	4.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備			5.0	5.0	0.20		-	
3	電気設備			5.0	5.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備			4.0	4.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					3.2	0.29	2.6	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり					3.0	0.31	2.2	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.6	0.38		-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	EPSに主要幹線と機器を設置、ケーブルラック敷設	5.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	EPSに主要幹線と機器を設置、ケーブルラック敷設	5.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース			EPS等に更新スペースを確保	4.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	近隣へ配慮し、病棟を北側にセットバックさせた	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.5
1 建物の熱負荷抑制				PAL値による評価	4.2	0.30		-	4.2
2 自然エネルギー利用					4.0	0.20		-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)	吹抜による自然採光・換気、太陽光パネルの設	4.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光パネルの設置	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化					2.6	0.30		-	2.6
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=3.1%	2.6				
集合住宅の評価					2.4				
4 効率的運用					3.5	0.20		-	3.5
4.1	モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制			運用方針・エネルギー削減目標の計画を実施	4.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護					3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.6	0.63		-	3.6
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	地域産木材の利用、再生骨材の利用	4.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	再生アスファルト、再生砕石の使用	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.4	0.22		-	3.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用				指定化学物質を含有しない建材の使用	5.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.6	0.68		-	
1	消火剤				2.0	0.33		-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33		-	
3	冷媒				3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮					3.1	0.33		-	3.1
2 地域環境への配慮					2.9	0.33		-	2.9
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制				2.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40		-	
1	騒音				3.0	0.33		-	
2	振動				3.0	0.33		-	
3	悪臭				3.0	0.33		-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40		-	
1	風害の抑制				3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制				3.0	-		-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			広告物照明の設置なし。	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30		-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる